

診療情報使用に関するお知らせ

『研究課題名 鼻骨骨折整復後の外固定用サーマルギプス®の有用性の検討』

【研究の背景および目的】

サーマルギプス®は鼻骨骨折整復後の外固定に使用する成形型臨床です。鼻骨骨折後の外固定は、良好な術後外鼻形態を得るために重要です。しかし、一般に普及している外固定材は欧米人の外鼻形状に合わせた製品が多く、日本人には適さない場合があります。一方、サーマルギプス®(東洋アルミ社)は日本製で、日本人向けに開発された製品であり、アルミニウムと熱可塑性樹脂を混合加工したシート(厚さ 2mm,10×10cm)で、熱湯により軟化し、採型性が高く、複雑な表面形状にも三次元的に加工して適合できます。

そこで、東邦大学医療センター大森病院形成外科では、過去に鼻骨骨折整復術後に外固定材を使用した症例を後ろ向きに観察・調査し、サーマルギプス®の有用性を検討することを目的とし、本研究を計画しました。

本研究により、日本人に適した外固定材を検証でき、治療の発展に貢献できると考えています。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2018年1月～2019年1月までに東邦大学医療センター大森病院形成外科において、鼻骨骨折整復の手術を受けた症例(18例)を対象とします。

診療録(カルテ)に記載されている診療情報や術前後に撮影した外鼻外観の写真、術前後に撮影した画像情報(CT検査など)をもとに、既存の外固定材(デンバースプリント®)使用群とサーマルギプス使用群とを①術後の皮膚とギプス間の隙間の有無の評価、②装着感や自己脱着のしやすさに関する聞き取り調査、③術前後の外観上の外鼻形態と術前後CTの鼻骨形態について後ろ向き調査で比較評価し、有用性を検討します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

形成外科学

職位・氏名 准教授・荻野 晶弘

電話 03-3762-4151 内線 77625